

第4回 五ヶ瀬川水系流域委員会 要旨

主要概要

1. 第3回流域委員会議事の確認
(資料：第3回五ヶ瀬川水系流域委員会要旨)
2. 分科会議事内容説明
分科会での議事内容を各分科会長より説明。
治水分科会・・・杉尾分科会長
利水分科会・・・梶井分科会長
環境分科会・・・黒木委員(神田分科会長欠席の為)
3. 質疑応答
各分科会からの報告を基に地区毎に質疑応答。
4. 第5回流域委員会開催について
1月と3月に予定。

質疑応答

1. [五ヶ瀬川河口]

方財の人たちの理解を得て、河口部を広くすることで各分科会とも依存はない。

2. [鷺島地区]

なるべく現状で残しておく。

(自然体験の場として整備)

3. [隔流堤について]

・隔流堤施工による漁業への影響、大瀬河口のフラッシュ効果を何かシミュレーション等検討を行っているのか。

(事務局) 今まで試験隔流や洪水後の河口状況、魚類の遡上調査等を実施してきているが、必要があれば、今後も検討を行う。

又、工事段階でも当然モニタリングをし、工夫をしながらやって行きたい。

・隔流堤によりその下流の水量が増えるが、下流を掘削することで逆に平常時の水位が低下しないのか。

(事務局) 掘削方法を工夫していきたい。今後提示していくのでご意見を伺いたい。

4. [市役所前高水敷]

改修方式としては、河床掘削や引堤よりも高水敷掘削が妥当である。

5. [岡富・古川地区]

インター線までの引堤とする。

6. [野田地区]

河畔林を出来るだけ残す改修とする。

7. [天下地区]

礫床が残っている五ヶ瀬川本川では珍しい場所である。平水位以上の掘削とし、水位を現状よりも下げない。

8. [三輪地区]

堤防断面が不足しており堤防の質的強化を図る。

9. [岩熊井堰について]

- ・岩熊井堰の魚道をもう少し遡上効果を上げる工夫をして欲しい。又、カヌー競技が出来るよう人工的に流れを作る改築という要望があるが、堰の改築は国土交通省でできるのか。

(事務局) 管理者が違うため難しいが、流域委員会の中で議論があり、整備計画に記載されれば、川全体の施策として進めていく形になる。

- ・岩熊井堰は約 500 町の田んぼに水を供給しており、改造にあたっては、非かんがい期や鮎の遡上時期を考慮して行う必要がある。

- ・岩熊井堰を利用したカヌー競技のイメージ図を利活用分科会で作ってみる。

10. [大瀬川 3/600 ~ 5/200]

延岡市内に一番近い場所でこれだけ広い高水敷があるのはここだけであり、有効利用が望ましいが民地でもあり、今後どのような整備の仕方がよいか検討していく。

11. [安賀多]

産卵場でもあり、旭化成の取水が行われているところでもあるため、高水敷掘削の方法は今後議論していく。

12. [祝子川]

堤防の質的強化で了承。